

〔研究員の視点〕

ロンドン五輪に関わる交通計画

運輸調査局 研究員 永瀬雄一

※本記事は、『交通新聞』に執筆したものを転載いたしました（図を除く）

英国の首都ロンドンにおいて、今年7月27日から8月12日までの17日間にわたって、第30回夏季オリンピック競技大会（以下五輪）が開催される。ロンドンでは1908年、1948年に続き3回目の開催となり、同じ都市での3回の五輪開催は史上初となる。

ロンドン五輪では26競技302種目が30会場で行われ、200以上の国と地域から約1万人の選手の参加が予定されており、400万人もの観客が訪れると言われている。ロンドン五輪開催期間中は、1日に80万人の観客、5,500人の選手やスタッフなど関係者、10万人の労働者といった、多くの人々が移動することとなる。

各地の会場で多くの選手やスタッフが参加し、たくさんの観客が訪れるロンドン五輪では、彼らのスムーズな移動の確保が重要な課題となる。オリンピック・デリバリー・オーソリティ（The Olympic Delivery Authority、以下ODA）^{<注1>}は、すべての観客の移動手段を公共交通機関や徒歩、自転車にしたいと考えており、公共交通機関の拡充や機能強化、道路規制に関する計画を進めている。

◆公共交通機関の拡充

ロンドン五輪の中心となるオリンピック・パークはロンドン東部ストラトフォードに位置し、最寄り駅は、ストラトフォード駅、ストラトフォード国際駅、ウェスト・ハム駅の

オリンピック・パークへの最寄り駅と乗り入れ路線

最寄り駅	乗り入れ路線	
ストラトフォード駅	ロンドン地下鉄	ジュビリー・ライン
		セントラル・ライン
	ドックランド・ライト・レールウェイ	
	ロンドン・オーバーグラウンド	ノース・ロンドン・ライン
ストラトフォード国際駅	ナショナル・レール	グレート・イースタン・メイン・ライン リー・バレー・ライン
	オリンピック・ジャベリン ドックランド・ライト・レールウェイ	
ウェスト・ハム駅	ロンドン地下鉄	ディストリクト・ライン
		ハマースミス&シティ・ライン
		ジュビリー・ライン
	ナショナル・レール	ロンドン、ティルバリー&サウスエンド鉄道

3駅で合計10路線が乗り入れることになり、五輪開催期間中は、これら3駅で1時間に240の列車が発着し、24万人を運ぶことができるようになる^{<注2>}。

ODAは、公共交通機関の拡充や機能の強化を図っており、特にオリンピック・パークへのアクセス/イグレスについて公共交通機関の改善が進んでいる。

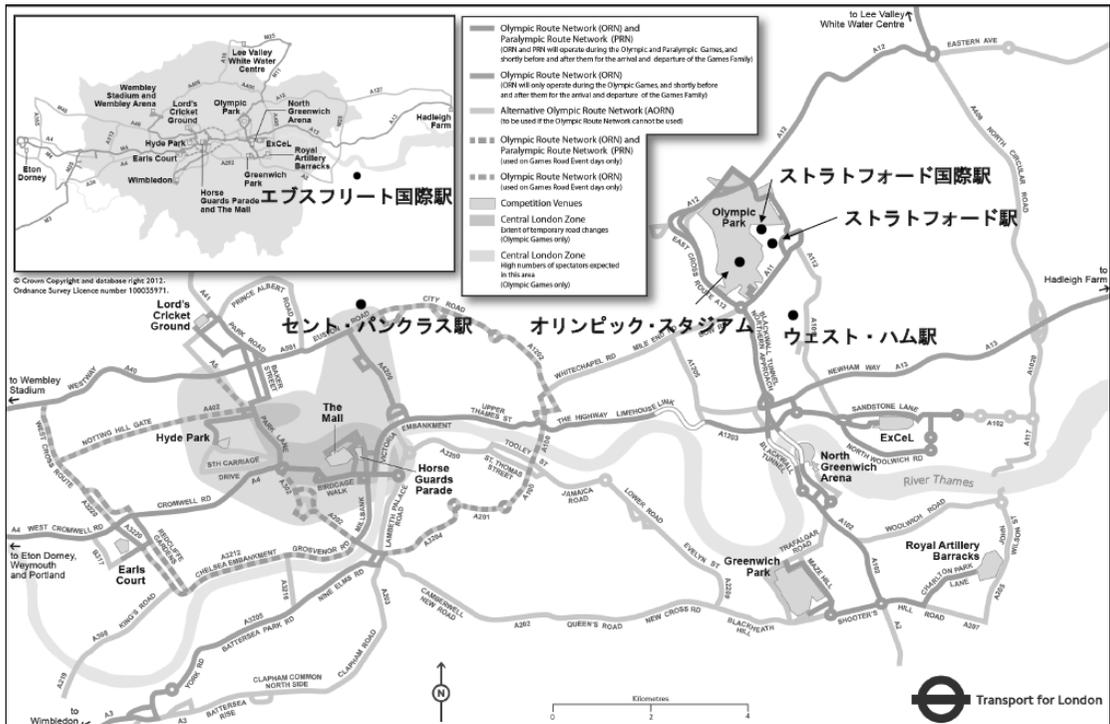
代表的なものとして、「オリンピック・ジャベリン」の運行やドックランド・ライト・レールウェイ (Docklands Light Railway、以下DLR) の延伸、イースト・ロンドン・ラインの延伸が挙げられる。

「オリンピック・ジャベリン」は、ロンドン五輪開催中に運行される高速列車シャトルサービスであり、ストラトフォード国際駅を

経由し、ロンドン中心部のセント・パンクラス国際駅とエクスフリート国際駅間を最高時速225キロ (平均時速183キロ)、およそ20分で結ぶことになる。オリンピック・ジャベリンは15分ごとに運行され、1時間に2万5,000人が利用可能となる。

また、DLRやイースト・ロンドン・ラインの延伸により、公共交通機関相互間の接続が改善され、オリンピック・パークやその他会場へのアクセス、並びに会場間のアクセスの便益向上をもたらし、輸送力増強を可能とすることとなった。

また、公共交通機関利用の促進として、五輪のチケットには、その当該競技開催日当日の公共交通機関の1日フリーパス・チケットが付帯されており、すべての公共交通機関



出典：ロンドン交通局ホームページから運輸調査局作成

研究員の視点

を無料で利用することができる。

◆オリンピック・ルート・ネットワーク

五輪を円滑に運営するためには、選手やチーム・スタッフは練習場や競技場に予定時間通りに到着しなければならない。加えて、時間通りに競技を実施するためには、テクニカル・スタッフや報道関係者の確実に正確な移動を確保する必要がある。

彼らの多くは車で移動となるため、慢性的な道路交通の混雑が社会問題となっている。ロンドンでは、特に重要な課題である。このような課題の解決のため、オリンピック・ルート・ネットワーク (the Olympic Route Network、以下 ORN) が計画されている。

ORN はロンドン中心部とオリンピック・パーク周辺を結ぶ「コア ORN」、会場間やホテル、国際的な到着ポイントを結ぶ「ベニュー・スペシフィック ORN」、練習場と他の ORN を結ぶ「トレーニング・ベニュー ORN」、コア ORN もしくは、ベニュー・スペシフィック ORN に何か問題が生じた場合に利用する「オルタナティブ・ルート ORN」と 4 種類に分けて考えられており、会場や練習場、ホテル等を結ぶ道路について交通規制を行う道路マネジメントである。

ORN のために、新しく道路を建設するのではなく、現在ロンドン周辺や英国にすでに存在する道路のうち約 450 キロを利用する。そのうちロンドン市内の約 48 キロについては、ゲーム・レーン (Games Lanes) と呼ばれ、先述した選手やスタッフ等に加え、政府やスポーツ組織の要人、マーケティング・パートナーを含め約 8 万人のみに開放される。

ORN は ODA とロンドン交通局や英国交通省、高速道路庁等がパートナーとして協働

して策定しており、必要な高速道路と幹線道路について道路キャパシティの最大化、信号システムや信号の改良、新しい交通管制センターや CCTV の導入、ジャンクションのアップグレードなどを行うことで、より効率的な道路ネットワークを構築する。

具体的な措置としては、約 700 のバス路線のうち 75 路線を迂回させることや、いくつかの横断歩道や側道の利用停止、ロンドンの交通管制センターが五輪公式自動車の進行を管理し、約 3,000 ヶ所のロンドン市内の信号を必要に応じて変える等の対策が挙げられる。

ORN により、ORN 対象者の移動を助けるとともに、五輪とは直接的に関係のない地域住民や道路利用者への影響も最小化することも狙いとなっている。五輪と地域のために最善なネットワークを構築できるよう、ODA とロンドン交通局などパートナーは地域住民や地域企業、道路利用者に諮問を行い、さまざまな視点から ORN を考えている。

◆おわりに

五輪のような多くの人々が訪れる世界的なイベントにおいて、交通に関する諸問題は、五輪の関係者や観客だけでなく、日常生活を営むロンドン市民や他の会場周辺居住者にも大きな影響を与える。地域に対して混乱を与えないことも五輪開催の重要な課題である。

ロンドンは、五輪を通じて貧困地域の再生や持続可能なまちづくりを志向している。その一環として、公共交通機関の充実による道路交通の円滑化や徒歩・自転車利用の促進がある。地域と協働し、観客を含む五輪関係者と地域住民の両者に対し、交通円滑化をもたらすことがロンドン五輪の成功につながるだ

ろう。

交通施策では、利用者や地域住民と協働し、持続可能性に対応することは、五輪のような大きなイベントに限らず重要となる。

本稿では、ロンドン五輪を契機とした交通改善施策の一部を紹介したが、道路混雑等ロンドンと同様の問題点を持つ日本の大都市圏にとっても、ロンドン五輪を契機として講じているさまざまな交通施策について参考とな

る点も多いだろう。

◇ ◇ ◇

〈注1〉ODAはオリンピック開催のための新しい会場やインフラの開発や建設、またオリンピック終了後のそれらの利用について担当する公的な団体

〈注2〉ストラトフォード駅とストラトフォード国際駅の距離は200メートル程度